

自民党行政視察

松本和幸

日程 平成 28 年 11 月 8 日～11 日 北海道

- 1, 千歳市 防災学習交流センター
- 2, 上士幌町 ふるさと納税
- 3, 足寄町 高等学校の支援について
- 4, 南幌町 稲わらペレットを利用した

地域循環システムの構築

自民党 行政視察

松本和幸

日程

11月8日～11日(金) 北海道

1. 千歳市 防災学習交流センター
2. 上士幌町 ふるさと納税
3. 足寄町 高等学校の支援について
4. 南幌町 箱わ5-ポットを利用した
地域循環システムの構築

熊本県水俣市議会 様

平成28年11月 8日

千歳市防災学習交流施設

「そなえーる」

千歳市防災学習交流施設について

千歳市の概要

本市は、石狩平野の南端に位置しており、札幌市や苫小牧市など4市4町に隣接し、札幌市へは快速エアポートを利用すると30分で到着します。

市域は、東西に細長く冬期間の降雪量は約1メートルと北海道の中では比較的少ない地域の一つです。また、この地域は年間を通じ南北に風が吹く日が多いことから滑走路はすべて南北に延長されています。

千歳市の東側は農業酪農が盛んで、西側には、周囲40キロ最大深度360メートルのカルデラ湖支笏湖が位置しています。

支笏湖は透明度が高く、日本最北の不凍湖として知られ、周辺には温泉宿も点在し、観光やレクリエーションとして賑わっております。

この湖から流れ出る千歳川は市街地を貫通し、石狩川から日本海へ通じサケの遡上母川として知られています。

市街地の中央付近には、千歳水族館が位置し、ここに設置されているインディアン水車には昨年1年間に約20万匹が遡上し捕獲されています。

1 施設建設の経緯と目的

千歳市は、自衛隊が市街地の三方を取り囲むような形状で、北東に陸上自衛隊東千歳駐屯地、南東に航空自衛隊千歳基地、南西に北千歳駐屯地が位置しており、しかも市街地の縁周部には、装軌車両、主に戦車が頻繁に通行する、延長約10kmの公道、通称「C経路」が通っており、東千歳駐屯地と北千歳駐屯地、その奥に続く北海道大演習場を結んでいる。

このC経路は、一部住宅地を通ることから、沿線住民から騒音振動による被害などが寄せられておりましたことから、市では、C経路における騒音などの課題解決を図るため、道路整備や緩衝地帯の整備などを盛り込んだ「C経路対

策の基本方針」を定め、沿線地域の生活環境の改善に努めてきておりましたが、地域の活性化や生活環境の一層の改善が要望されました。

このような状況のなか、平成 14 年度に防衛施設周辺地域の発展に貢献しようという新たな国の高額補助制度「まちづくり構想策定支援事業」が創設されたことから、C 経路沿道の課題解決を図るとともに、市の総合計画で位置づけている、総合的な防災対策の推進や自主防災組織の充実などの観点から、住民要望や住民懇話会での議論を踏まえて防災学習交流施設の整備を行うこととし、当時の防衛施設庁に事業の採択の要望活動を行いまして、平成 17 年 12 月に正式に補助事業として採択をされ、防衛施設と共存した災害に強い安全なまちづくりを進めることとしたものであります。

総事業費は約 21 億円で、財源内訳については、防衛省所管民生安定事業で実施しており、国庫補助率は 75%で、残り 25%は起債 75%、市費 25%となっております。

2 施設の概要

防災学習交流施設は、総面積約 8.4ha で、A・B・C の 3 つのゾーンからなっております。

A ゾーンは広さ 4.3ha で 3 階建て延べ面積約 2,300 m²の防災学習交流センター「そなえーる」、広さ約 2.4ha の防災訓練広場、ロープ訓練塔、防災備蓄倉庫を兼ねた副訓練塔、常設ヘリポート、駐車場などを配置しております。

「そなえーる」には、災害を「学ぶ」「体験する」「備える」をテーマに、災害の疑似体験や防災学習を通じて、防災に対する意識を高めてもらうことを目的とした、起震装置、煙避難装置、予防実験装置、避難器具などを備えた施設となっております。

B ゾーン「学びの広場」は広さ 1.1ha、造成に伴う雨水調整池と消火体験や救出体験を通し、自助・共助を学ぶことを目的に設置した広場となっております。

C ゾーン「防災の森」は広さ 3ha で約 150 人がキャンプ利用できる「野営生活訓練広場」、調整池を兼ねた「多目的広場」湧き水を利用した「河川災害訓練広場」「土のう訓練広場」アスレチック遊具などを設置した「サバイバル訓練広場」のほか管理棟、駐車場を配置し、共同作業が体験できる広場となっております。

3 管理・運営

施設の管理については、1種非常勤職4名、臨時職員5名の9名体制で、施設管理・屋外管理及び施設の説明並びに展示場の案内業務を行っております。

ただし、5月から10月までの間は、「防災の森」がオープンすることから、臨時職員3名を採用して運営しております。

また、夜間の管理体制は、夜9時から翌朝8時45分までは、警備保障に委託業務を行い施設の警備を執っております。

運営時間につきましては、朝8時45分から夜9時まで、施設、屋外訓練場を貸し付けていますが、展示場の開館時間は、朝10時から夕方5時までとしております。

休館日は、毎週月曜日とし、第4週目の火曜日も休館としております。

勤務体制は、変則勤務で、早出勤務と遅出勤務体制を執り、週休日は各自に指定して与えております。

1種非常勤職員にあっては、1週間当たり29時間以内としております。

4 事業内容・施設の利用状況

防災意識を高めていただくため、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、救急救命率の向上のための救急講習会、市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会、自主防災組織及び事業所等を対象とした防災関係の講座、防災イベントなどを開催しております。

防災学習交流施設の利用状況につきましては、平成22年度は37,644人、平成23年度は58,393人、平成24年度は48,615人、平成25年度47,484人、平成26年度44,399人、平成27年度3月31日現在42,027人に利用者いただき、開設から平成28年3月末現在、27万8502人の方に利用していただいておりますが、平成28年8月24日には30万人を突破いたしました。

5 今後の予定・課題

東日本大震災を受け、千歳市総合防災訓練や町内会、自主防災組織等による消火・救出等の防災訓練、市民を対象とした千歳市民防災講座や町内会、自主防災組織及び事業所等を対象とした防災関係の講座、防災イベントなどを開

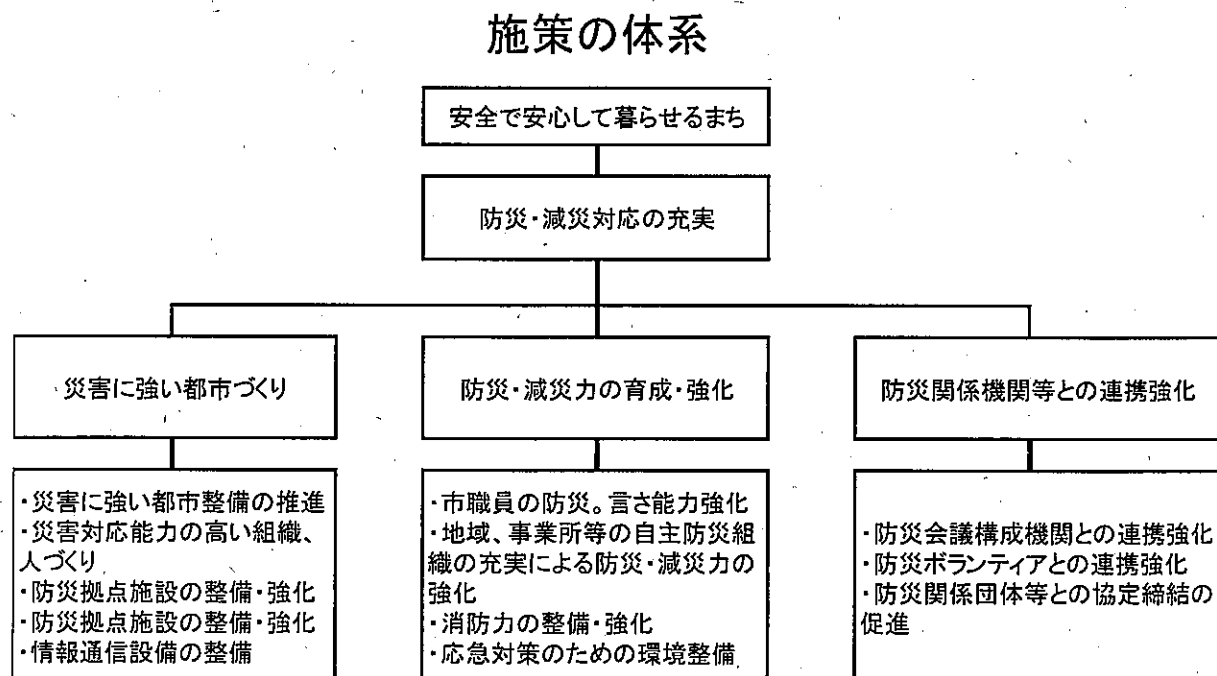
催し、防火・防災に対する意識の向上に取り組んでまいります。

また、市民や市内の小中学生には、災害から自分の身を守る自助や共助、公助などについて防災学習や災害模擬体験などを通じて学んでいただき、防災に対する関心がより一層高まるとともに市民、自主防災組織及び防災関係機関の意識付けを図る取り組みを進めてまいります。

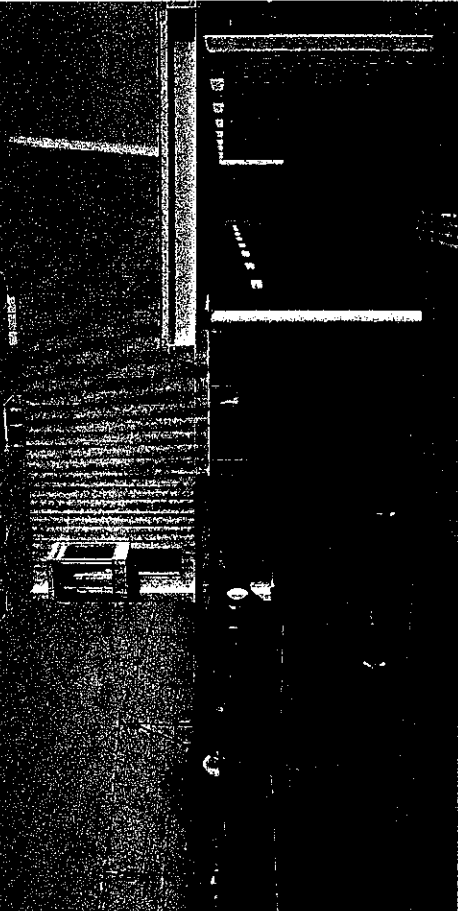
今後の課題につきましては、市民の方々に防災力の向上をより一層高めていただく展示施設、見学施設の利用のみではなく、防災学習や防災訓練などに多くの方に参加していただき、自主防災組織や防災関係団体などと連携して各種防災事業に取り組むとともに防災面以外でも、より多くの方々に様々な分野で活用していただけるよう、施設運営を工夫してまいりたいと考えています。

また、ハード面では今後、体験展示設備等の更新に多額の経費がかかることが予想されるものと考えております。

千歳市における防災・減災の構想



千歳市防災学習交流施設 そなえる



防災学習交流施設事業費・工程

- 1 事業期間:平成18年度～22年度
(平成17年度に補助事業として採択)
- 2 整備総面積:約8.4ha
- 3 総事業費:約21億円
(防衛の民生安定事業:補助率7.5/10)
- 4 管理・運営:市直轄運営(勤務員:8～9名)

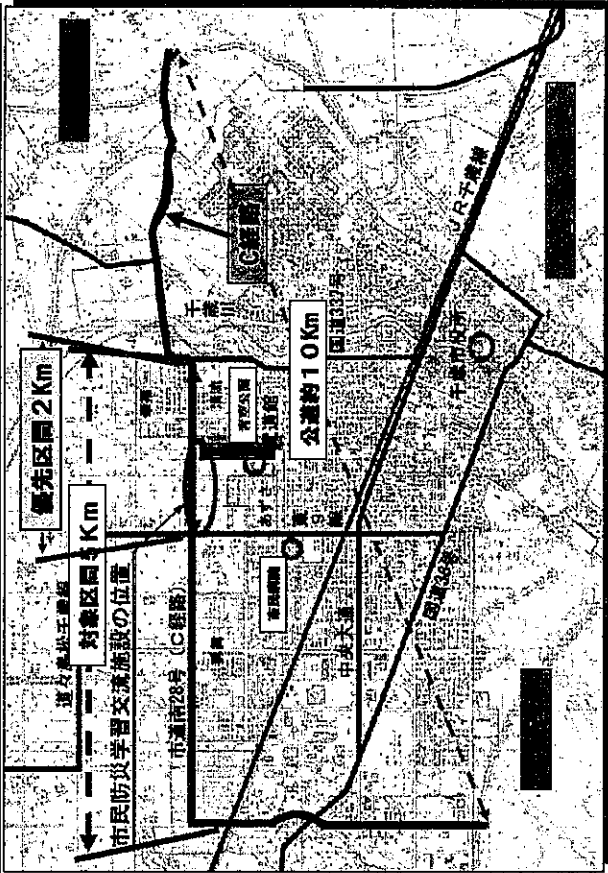
年度	18	19	20	21	22
実施設計	ABCノーン		Cノーン普通 倉・保管庫		実 成
用地取得		用地買収			
工 事			ABノーン		Cノーン構築費

防災学習交流施設の目的

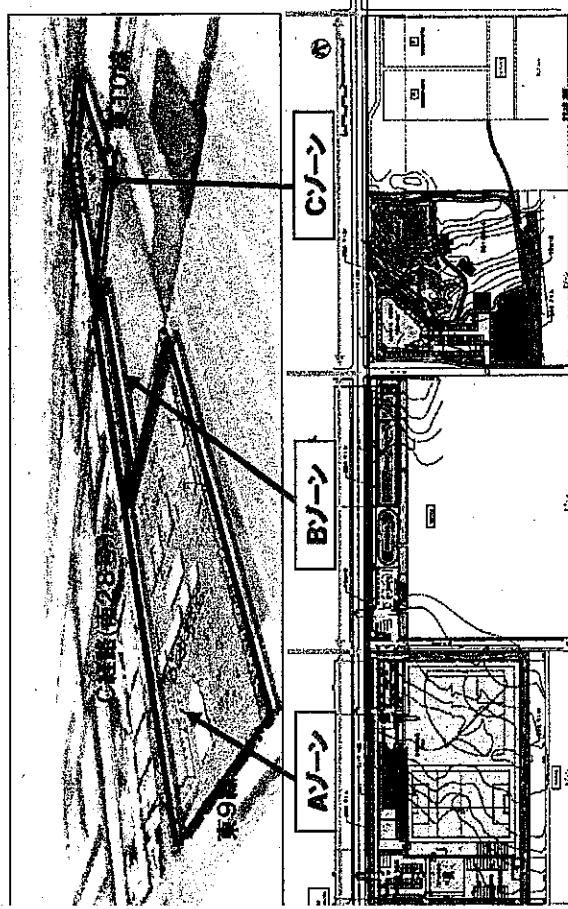
市民(自主防災組織)、ボランティア、防災関係機関が単独又は相互に連携し、防災学習や防災訓練等を実施することで、市民や防災関係機関の防災力を高めるとともに、防災関係機関に対する理解を深めることを目的とする。

災害時には、災害対策の拠点として使用する。

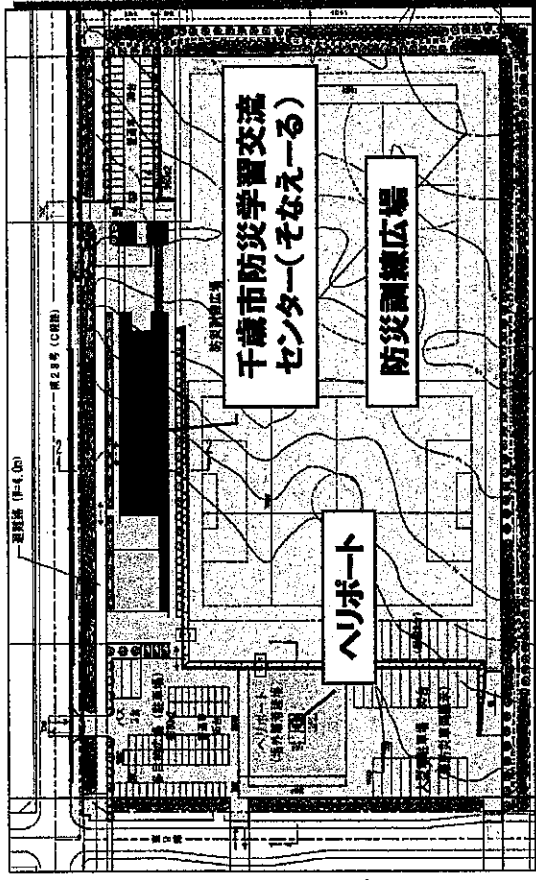
演習場等周辺まちづくり対象地域



防災学習交流施設全体図

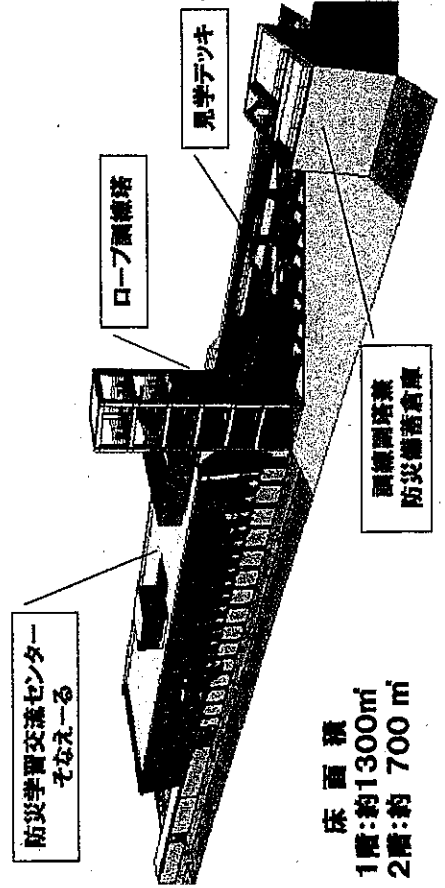


Aゾーン（面積：4.3ha）



中核施設・そなえーる

訓練広場側からの外観



床面積
1階:約1300㎡
2階:約700㎡

施設概要・展示コーナー

○ 地震体験コーナー

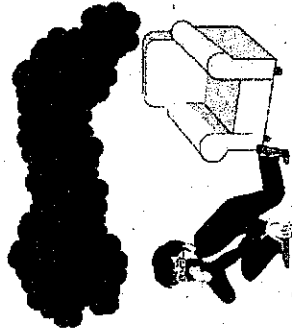
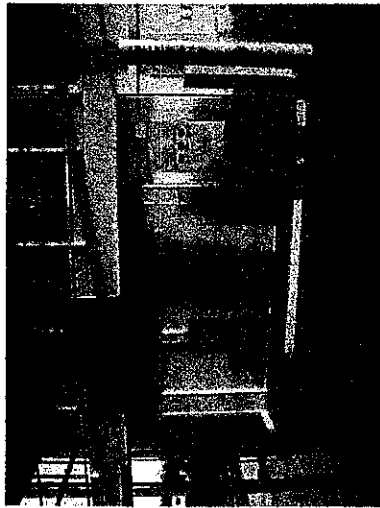
阪神・淡路大震災や新潟県中越沖地震など過去に起きた大地震の揺れを実際に体験することができます。



施設概要・展示コーナー

○ 煙避難体験コーナー

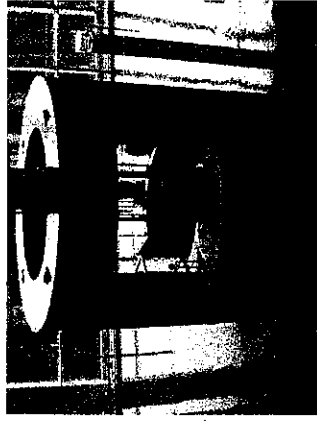
煙を充満させた建物内で、煙の中からの避難行動を体験することができます。



施設概要・展示コーナー

○ 予防実験コーナー

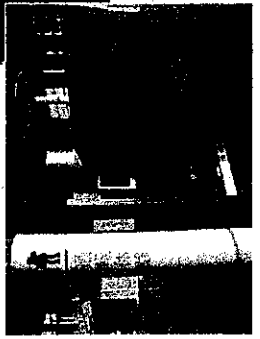
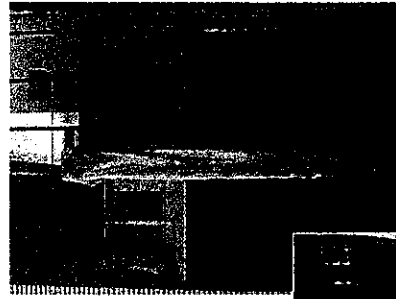
実験装置を利用して天ぷら油やコンセントからの発火現象を見ながら、火災の原因を学習することができます。



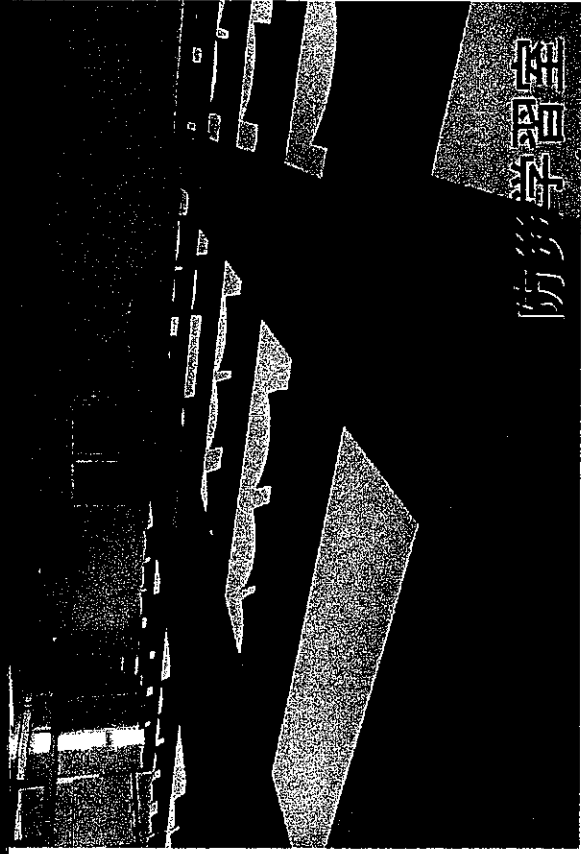
施設概要・展示コーナー

そのほか、

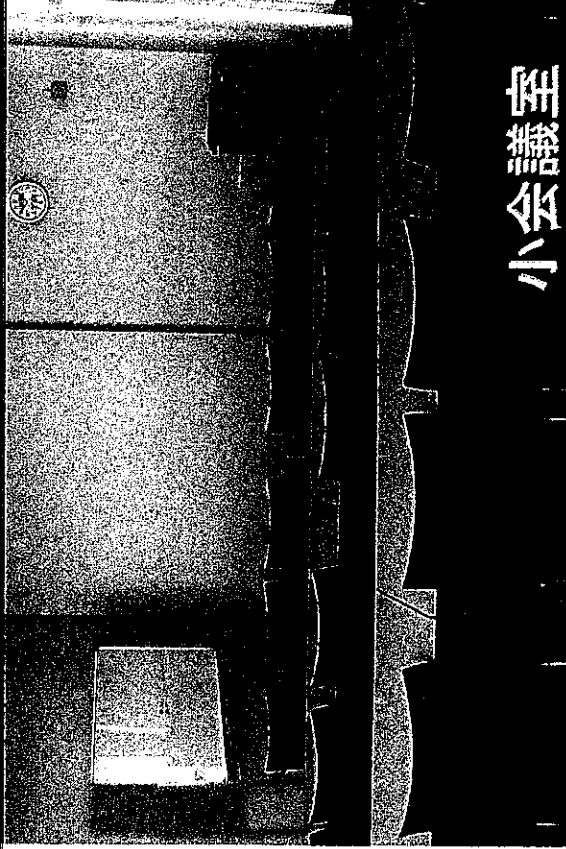
- ・ 通報体験コーナー
 - ・ 防災情報検索コーナー
 - ・ 避難器具体験コーナー
- などがあります。



施設概要



施設概要



小会議室

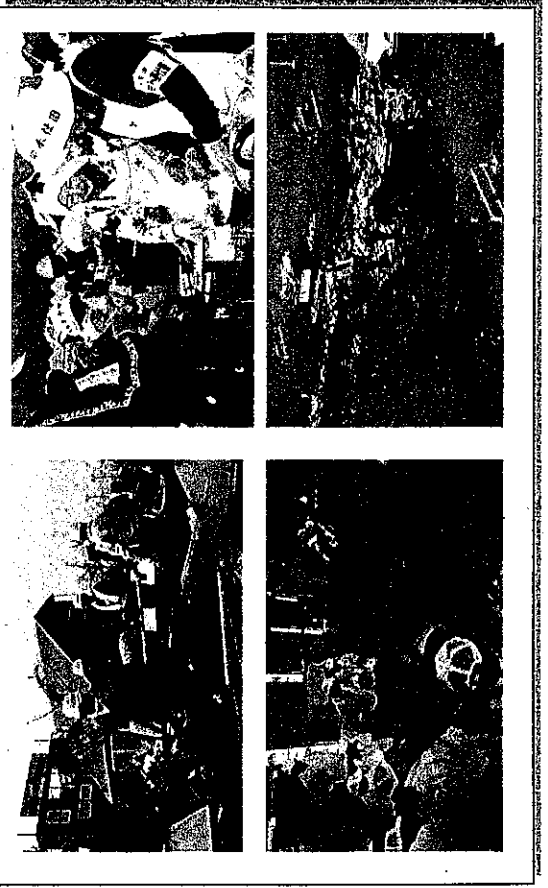
施設概要



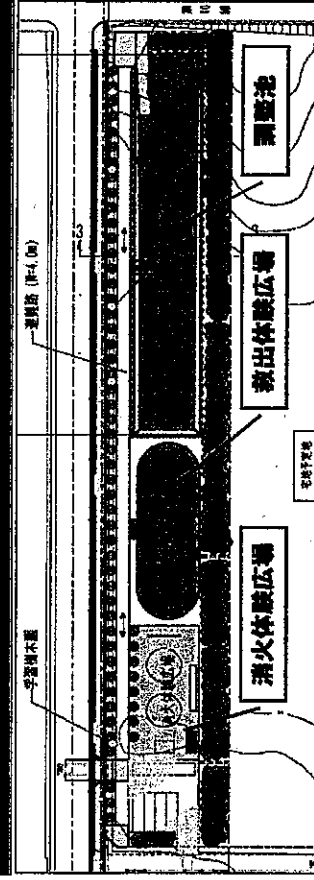
屋内訓練室

Aゾーンでの訓練

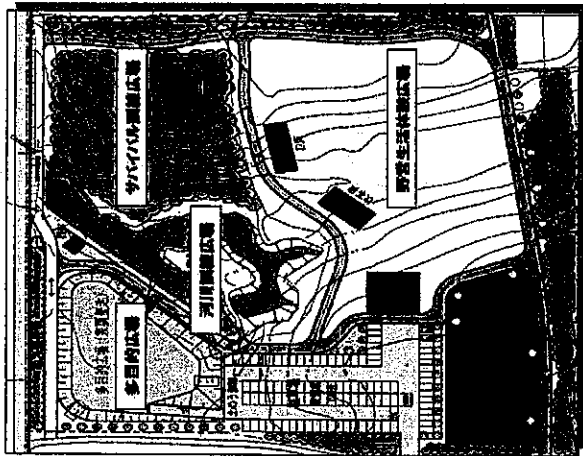
平成25年度総合防災訓練など



Bゾーン(面積:1.1ha)



Cゾーン(面積:3ha)

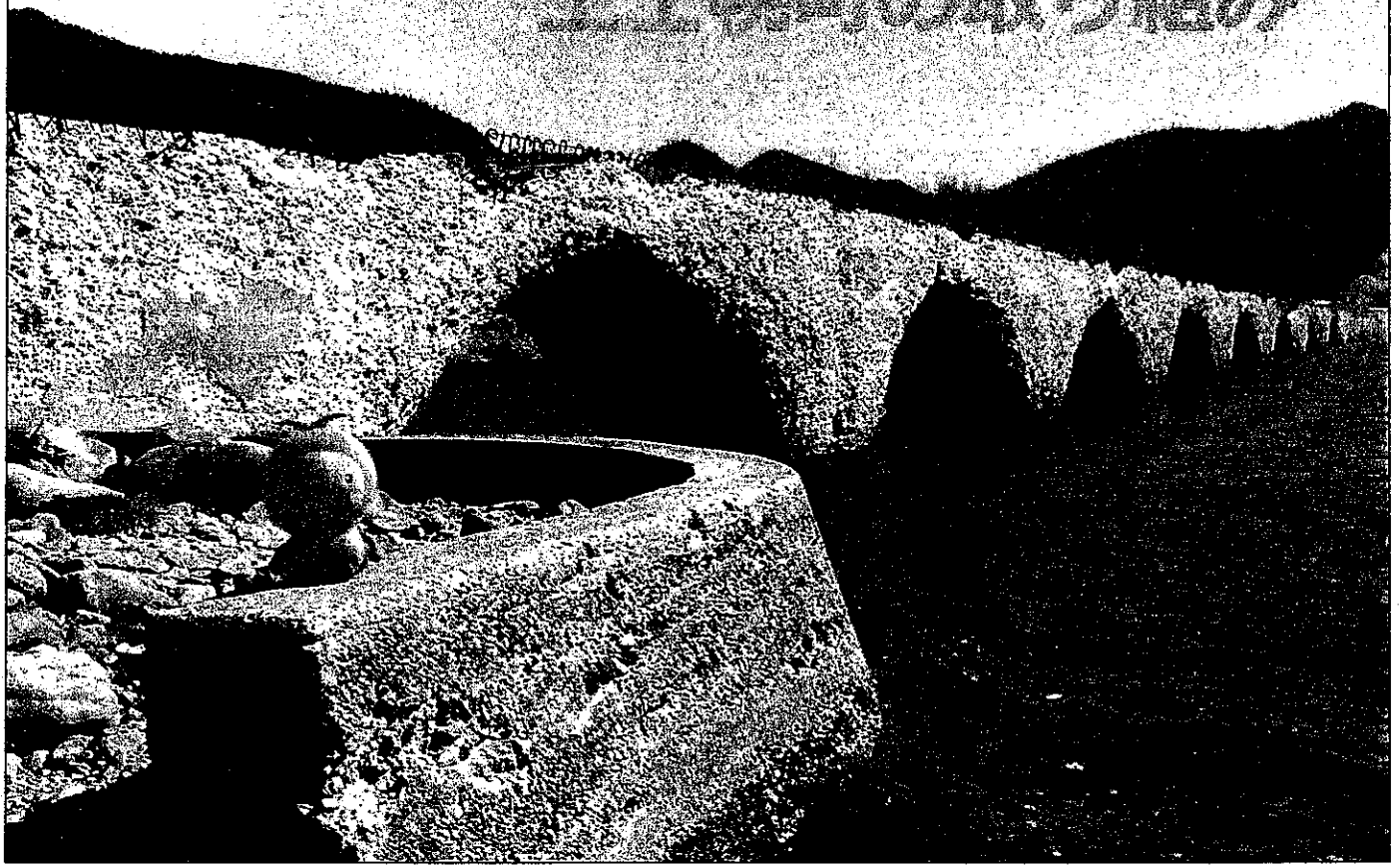


災害を

体験し学び
そして備える

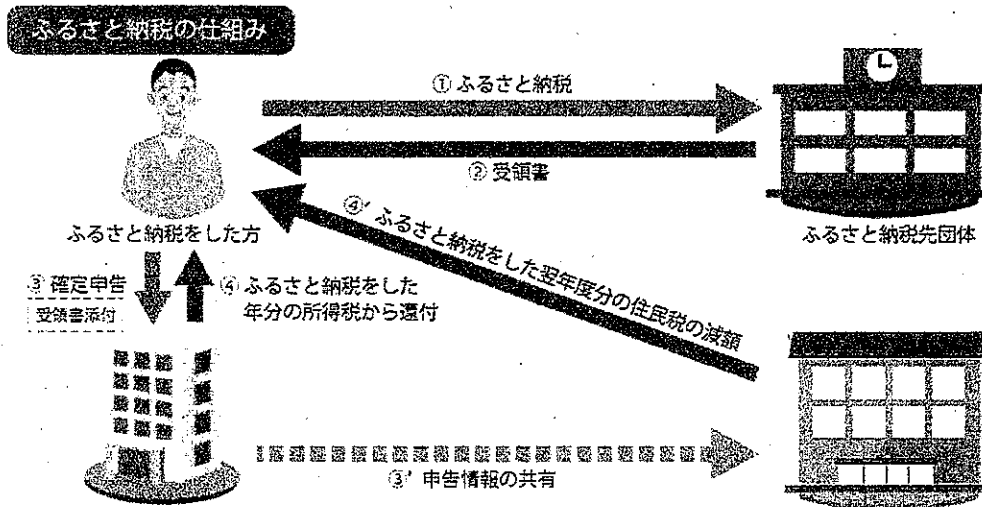
千歳市防災学習交流施設

ふるさと納税 上士幌町の取り組み



ふるさと納税とは？

ふるさと納税とは、自治体への寄付金のことです。
個人が2,000円を超える寄付を行った時に、
所得税、住民税がそれぞれ、還付、控除される制度です。
つまり、いま収めている住民税の一部を、自ら選んだ任意の
自治体へ移転できる事になります。



ふるさと納税 夜明け前

キーワードは、

都市と農村の交流
(人の交流・物の交流)

&

ICT（情報通信技術）の活用

平成20年 12月

平成21年 7月

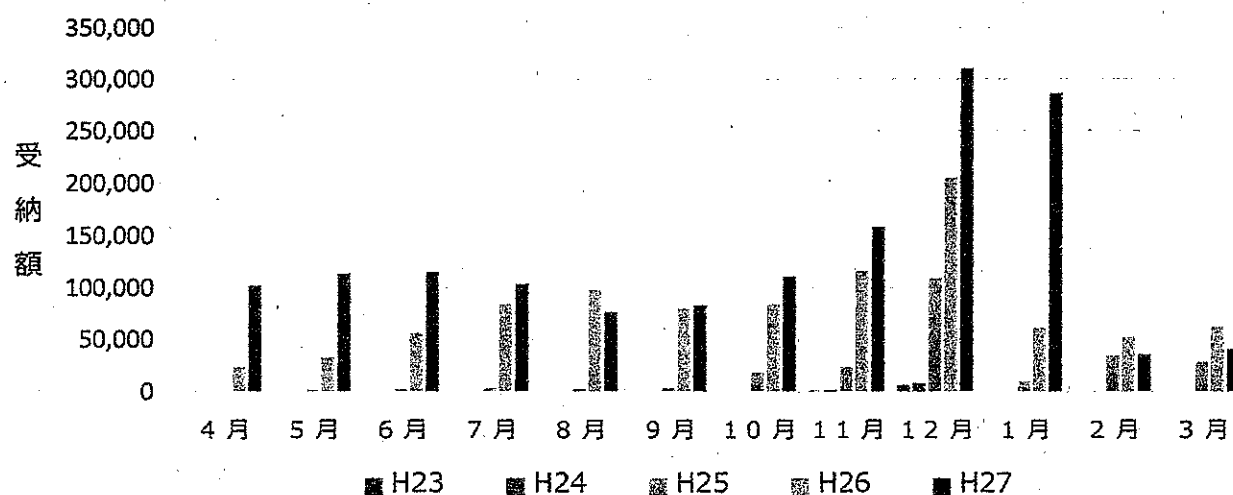
平成22年 4月

平成22年 6月

平成22年 8月

まちが運営するブログを開設(北海道初)
農林商工連携促進事業開始(新商品の開発など)
地域おこし協力隊で情報交流推進員を採用
NPO法人上士幌コンシェルジュ設立
(移住定住・新商品の開発、情報受発信)
ネットショップ「かみしほろん市場オープン」

寄付金額の推移【平成23～27年度】



【受納（調定）ベース】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H23	1,110	0	315	5	210	270	470	1,455	7,036	175	210	490
H24	350	419	472	527	185	570	1,097	1,876	8,583	340	560	980
H25	1,280	2,090	3,184	3,860	2,930	3,937	18,870	23,934	109,264	10,553	34,831	28,770
H26												
H27												

平成23年8月 感謝特典の送付を開始

平成24年9月 ふるさとチョイスがオープン

平成25年4月 特典の“年度1回”の制限をなくす

平成25年12月 クレジット決済を導入

ふるさとチョイスの申し込みフォームと
連携したYahoo!公金支払いを導入

寄付件数それぞれの割合【平成27年度】

■ 申し込み方法別

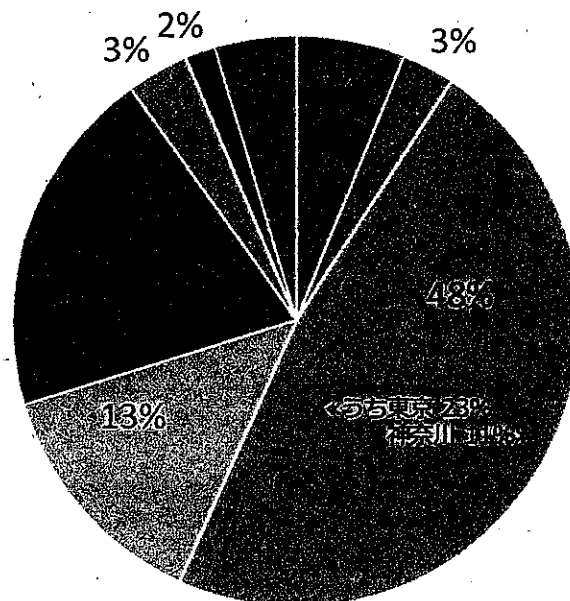
インターネット	用紙(郵送・FAX)
92.8%	7.2%

■ 支払方法別

クレジット	納付書	コンビニ	その他
75.6%	19.7%	4.1%	0.6%

ⓘ 平成28年度からは、ジャパンネット銀行
のワンタイム口座を開始

■ 地域別



■ 道内 ■ 東北 ■ 関東 ■ 中部
■ 近畿 ■ 中国 ■ 四国 ■ 九州

2016年の地方税収のうち
個人住民税は、**12兆5千億円**



すなわち、
ふるさと納税の市場規模は、
2兆5千億円！

上士幌町のふるさと納税による 寄付実績

平成 26 年度寄付額 **約9億5千万円**
全国第3位！ 全道第1位！

平成 27 年度寄付額 **約15億3千万円**
全国第15位！ 全道第1位！

上士幌町の財政規模

一般会計予算 61.3億円

歳入の主な内訳

地方交付税 27.0億円

町 税 6.2億円

(うち町民税) 2.5億円

寄付額は町民税の約7倍！

ふるさと納税寄付金申込書

(FAX でも受付可能です: 01564-2-4637)

上士幌町長 様

平成 年 月 日

- ◆税控除を受けられる方の住所・氏名をご記入ください
- ◆お申し込み後、ゆうちょ銀行で納付可能な「納付書」を郵送します
- ◆この申込書は平成 29 年 3 月 31 日までご利用いただけます

氏 名 フリガナ

〒 住所

電話番号 (← 繋がりやすいお電話をご優先ください)

記

1. 寄付金額 金 円

2. 寄付金の使途 (どれか一つに✓印でチェック)

- ☐ 町におまかせ (主に子育て・教育に活用) ☐ 観光 ☐ 農林業
☐ 医療・介護・福祉 ☐ 商工業 ☐ 第三音更川橋梁 (鉄道遺産) の補修

3. 寄付金控除の方法 ☐ 確定申告する ☐ 確定申告しない

※ 確定申告を「しない」場合、ワンストップ特例制度の書類を別途お送りします

4. 感謝特典のご選択 ☐ 特産品を希望する ☐ 特産品を希望しない

※ 下記リストにない品番号の特典はお受けできませんのでご了承ください

「金額コース×個数」の合計額が寄付額に収まるように記入してください					
5千円	G00501	キャンディ	[ケ]	G00502	お土産 [ケ]
	G00503	醤油	[ケ]	G00504	鹿肉セット [ケ]
1万円	A01001	ジェラート14ケ	[ケ]	A01003	プリン10ケ 品切れ中
	B01001	バナナアイス14ケ	[ケ]	C01001	和牛焼肉 [ケ]
	C01002	和牛ステーキ	[ケ]	C01003	ハンバーグ10ケ [ケ]
	D01002	アールスメイト焼肉	品切れ中	D01003	ハーブステーキ [ケ]
	D01008	コンビーフ6缶	[ケ]	E01001	ミルクジャム [ケ]
	E01002	クロワッサンセット	[ケ]	E01003	ミルクジャムスフレ [ケ]
	G01001	焼酎	[ケ]	G01002	豆セット [ケ]
2万円	C02002	肩ロース焼肉	[ケ]	C02003	肩ロースステーキ [ケ]

5. 寄付の動機

- ☐ 町出身である ☐ 町に訪れたことがある ☐ 知人がいる ☐ その他

6. 上士幌町のふるさと納税DMの送付 ☐ 今後希望する ☐ 希望しない

備考欄

水俣市議会行政視察資料

足寄高等学校の存続支援について

足寄町教育委員会

2. 足寄高校存続の支援組織

■足寄高校を存続させる会

道教委の「新たな高校教育に関する指針」の素案が公表されてから、足寄高校・足寄高校振興会・教育委員会が、足寄高校の存続に向けた、その対策の協議を行った結果、平成19年2月5日に「足寄高校を存続させる会」を設立した。

役員は、会長～町長、副会長～町議会議長、・教育委員長・足寄高校振興会・P 連会長が就任し設立された。以後、道教委の公立高等学校配置計画により、高校の間口が調整（入学者数の状況により調整される間口数とは別に）されることから、計画（案）に注視しつつ、存続に係る運動を展開していくことになる。

①役員・事務局体制について

- 会長1名、副会長4名
- 任期は2年、再任は妨げない
- 会議の開催
- 事業の内容
 - ・足寄高校の存続に関する各種取組み
 - ・足寄高校の学力向上及び進路指導への協力
 - ・足寄高校の魅力ある学校づくりに対する協力
 - ・その他、この会の目的達成に必要な事業

②活動について

「存続させる会」は、足寄高校の存続を町全体で行う体制の構築を図り、具体的な支援を実施する教育委員会（通学・入学一時金などの直接支援）や足寄高校振興会（学力向上や部活などの各種間接支援）、町（公設民営塾）と連携図り、様々な支援策の具現化や高校との連携などを図っている。

また、中学在校生に対する足寄高校の説明（足寄高校支援内容）や高校が開催する説明会への積極的に参加・協力や隣町の陸別中・陸別町教育委員会に対する足寄高校進学の働きかけ（足寄高校の説明及び通学支援内容など）、PR 活動も取り組んでいる。

■足寄高等学校振興会

平成7年に、学力向上など魅力ある学校づくりを支援し、足寄高等学校の存続を図る目的で「足寄高等学校振興会」が同窓会やPTA、町内企業が中心となり設立され、様々な支援事業に取り組んでいる。

運営費は、町、法人会足寄地区会などから拠出されており、4月中旬に総会が開催される。

①役員・事務局体制について

組織構成は、本会の趣旨に賛同する団体及び有志会員をもって構成し、役員は、名誉顧問、顧問、参与と会長・副会長・理事・事務局からなり、名誉顧問は鈴木宗男元代議士氏、神本元道議、松山千春（足寄高校OB）、顧問は足寄町・陸別町の町長・議会議長・教育委員会で構成され、参与は足寄高校長、会長・副会長は町内各団体、事務局は足寄高校である。

②活動について

学力向上や部活支援などの事業を実施する。

②支援内容について

詳細は、足寄高等学校振興会が行う支援の項目に記載。

魅力ある学校づくりとし、進学合宿、検定・模試受検料、漢字検定、eラーニングなどの学力向上と九州大学との進学講座会、部活動や大会遠征費などの助成、キャンパスライフなどのPR活動支援などに係る費用を、足寄高等学校振興会を通じて町が支援している。

3. 足寄高校存続支援の内容

(1) 教育委員会が行う支援。(直接支援)

■足寄高等学校通学補助事業

足寄高校に遠距離通学する生徒の保護者に通学費等を補助し、負担の軽減と生徒の確保を図ることを目的とする補助制度で、通学費・下宿代・入学一時金・見学旅行時補助などを行っている。

対象者は高校で取りまとめることとなる。

【支援内容】

区分	H20 年度まで	H21 年度以降	H27 年度以降
公共交通機関利用者	定期代月額 2/3 限度額 10,000 円	定期代月額の全額 ただし、他の補助制度の補助分を除く	定期代月額の全額 ただし、他の補助制度の補助分を除く
自家用車利用者	月額 2,000 円	月額 2,000 円 スクールバスを片道利用する場合も 2,000 円	月額 2,000 円 スクールバスを片道利用する場合も 2,000 円
公共交通機関 + 自家用車利用者		定期代月額に 2,000 円を加算する	定期代月額に 2,000 円を加算する
下宿者	下宿代月額 1/3 限度 10,000 円	下宿代月額 2/3 限度 30,000 円	限度 40,000 円
入学補助金		新入学時に一時金として 30,000 円	新入学時に一時金として 70,000 円
見学旅行時補助金		見学旅行時に一時金として 30,000 円	見学旅行時に一時金として 30,000 円

【支援実績】

	公共交通 機関利用	自家用車 利 用	下 宿	入 学 時 一 時 金	見学旅行 一 時 金	支援額（決算額） 円
H22	18	19	1	40	49	5,666,900
H23	13	18	1	38	37	4,552,300
H24	19	15	1	47	38	5,570,420
H25	26	11	3	39	43	7,457,380
H26	26	7	4	30	34	6,732,820
H27	17	3	8	45	29	✓ 10,382,030
H28	17	5	14	55	45	✓ 14,789,920

※ H28は予算額

■足寄高校生学校給食提供（学校給食費無償化事業による取り組み）

学校給食センターの改築（平成27年4月より新施設で供用開始）にあたり、足寄高校存続支援として給食の提供を検討してきた。

若い世代の出産・子育てに対する不安の軽減、出生数の増と若い世代の移住促進を推進し、まち・ひと・しごとの創生に資するものと考え、小中学校及び高校の児童生徒の学校給食費を無料化とする事業が平成27年度より実施された。

給食費無償化事業により、高校への給食の無償提供で、足寄高校の特色ある学校づくりを支援し、足寄高校存続に向けた取組みの一助とする。

生徒、教職員への給食提供は希望制とし、給食献立や量、費用額は、基本的に中学校と同様とし、費用の全額補助とした。

具体的な助成については、足寄町学校給食補助金交付要綱を定めて実施した。

①対 象 者

給食提供を希望する生徒、教職員（有償）

小学生 一食 217円 年間195食

中学生 一食 265円 年間195食

高校生 一食 225円 年間（1～2年生は170食、3年生は150食）

※ 高校生は牛乳を提供していない分給食料を引き下げている。（▲40円）

②実施開始日

平成27年 6月 1日（小・中学校は平成27年 4月 1日）

③対象事業費

●平成27年度（実績）

小学生	要保護	3人	126,728円		
	準要保護	61人	2,462,733円		
	無償化	292人	12,246,178円(82.55%)	計	14,835,639円
中学生	要保護	2人	102,025円		
	準要保護	36人	1,735,485円		
	無償化	128人	6,437,910円(77.78%)	計	8,275,420円
高校生	無償化	106人	3,118,950円(100.0%)		3,118,950円
	無償化	526人	21,803,038円(83.12%)	全体	26,230,009円

●平成28年度（予算）

小学生	要保護	2人	84,630円		
	準要保護	61人	2,581,215円		
	無償化	288人	12,186,720円(82.05%)	計	14,852,565円
中学生	要保護	3人	155,025円		
	準要保護	36人	1,860,300円		
	無償化	127人	6,562,725円(76.51%)	計	8,578,050円
高校生	無償化	120人	4,459,500円(100.0%)		4,459,500円
	無償化	535人	23,208,945円(83.22%)	全体	27,890,115円

※ 小・中学生において、要保護、準要保護は、国からの交付金などでの財政措置があることから無償化の対象としていない。

(2)足寄高等学校振興会が行う支援。(間接支援)

支援事業は、進学学習、夏季・冬季進学講座、進路指導用書籍・資料、模擬試験・検定費用補助、説明会、PR用冊子、九州大学との連携、部活動支援、インターンシップ事業などである。

年度	基礎額	学力向上	九大連携	部活支援	PR活動	介護初任研修	その他	合 計
H20	300,000	406,600	277,000					983,600
H21	300,000	791,000	60,000	200,000				1,351,000
H22	300,000	791,000	60,000	200,000				1,351,000
H23	300,000	791,000	60,000	1,250,000			647,200	3,048,200
H24	300,000	1,058,100	60,000	1,250,000	380,100			3,048,200
H25	300,000	1,058,100	60,000	2,000,000	380,100			3,798,200
H26	300,000	1,058,100	60,000	2,000,000	380,100	1,579,200		5,377,400
H27	300,000	1,158,100	60,000	2,100,000	380,100		150,000	4,148,200
H28	300,000	2,960,000	100,000	1,750,000	250,000		446,720	5,806,720

※ 平成26年度の介護初任研修に係る支援は、平成27年度以降は一般市民を対象として事業に包括され、福祉課の研修費として予算化されたため、平成27年度以降は記述していないが、平成27年度以降も支援している。

※ 平成28年度のその他支援額は増加した内容は、町外者が進学が増える中で町として下宿確保にも限界があり、民間のアパートなどを利用する下宿生徒への支援(学習机・椅子・洋服掛け)として予算化したもの。

■支援額の詳細 (H28年度予算)

基本補助額 **300,000円**

学力向上関係 **2,960,000円**

- ・進学合宿講師料 28,000円 2,800円×10
- ・進学合宿費用補助 154,000円 3,850円×40
- ・進学合宿指導資料 12,000円 4,000円×3教科(英・数・国)
- ・検定受検料補助 500,000円 全額支援
- ・模試受検料補助 1,200,000円 全額支援
- ・1・2年小論文模試 160,000円 全額支援 1・2年生全員
- ・漢字検定 240,000円 全額支援 1・2年生全員
- ・夏季・冬季講習講師料 336,000円 2,800円×120
- ・eラーニング 150,000円 半額補助
- ・スタディサポート 180,000円 半額補助

九州大学との進学講座会 **100,000円**

- ・バス借上げ 100,000円

部活動支援 **1,750,000円**

- ・部活動支援費 200,000円 用具等購入 100,000円、遠征補助 100,000円
- ・大会遠征費 1,550,000円 地区大会遠征費 300,000円
- 全道・全国大会遠征費 400,000円
- 高体連・高文連等負担金 100,000円
- 部活動追加支援 750,000円

PR活動支援 **250,000円**

特別交通費補助 **140,000円**

備品購入 **306,720円**

情報誌印刷(キャンパスライフ)、学校説明会資料

足手術生徒へのタクシー通学支援

下宿生徒への支援(学習机・椅子・洋服掛け)

(3) 実行委員会を設置し行う支援。(間接支援)

■足寄高校生の足寄町姉妹都市ウェタスキウィン市への海外研修派遣

足寄高校第1学年を、足寄町の姉妹都市カナダ・アルバータ州ウェタスキウィン市におけるホームステイを中心とした海外研修に派遣し、現地での生活を体験することにより、外国の生活・文化に対する見識を広め、国際社会に対応できる人間性豊かな人材の育成を図る。また、本事業をとおり両市町の友好親善を深める好機とする。

さらに、足寄高校の特色ある学校づくりを支援し、足寄高校存続に向けた取組みとして、実行委員会を設けて、実行委員会へ補助する手法で実施している。

①派遣期間 7泊9日間

平成25年 9月23日 ～ 平成25年10月 1日
平成26年 9月22日 ～ 平成26年 9月30日
平成27年 9月22日 ～ 平成27年 9月30日
平成28年 9月20日 ～ 平成27年 9月28日

②研修内容

研修は、大きく分けて3項目とし

- I 交流研修では、現地高校との交流を通じた学校生活の体験
- II 家庭生活では、ホームステイにおける家庭生活の体験
- III 視察研修では、カナディアンロッキー等の景勝地や各地の施設等を視察することにより視野を広める

③派遣先

カナダ・アルバータ州ウェタスキウィン市等

④派遣対象者

足寄高校に在学する第1学年全員

⑤派遣人員

高校生と引率教諭、随町職員

⑥参加経費

足寄高校生海外研修派遣事業実行委員会(足寄町全額負担)

⑦実績

平成25年度	参加者：生徒 43名 引率教員 3名 教育委員会引率 4名 費用：町補助金額 18,258千円
平成26年度	参加者：生徒 29名 引率教員 3名 教育委員会引率 2名 費用：町補助金額 12,630千円
平成27年度	参加者：生徒 43名 引率教員 3名 教育委員会引率 3名 費用：町補助金額 16,930千円
平成28年度	参加者：生徒 49名 引率教員 3名 教育委員会引率 3名 費用：町補助金額 24,011千円(予算額)

(4)指定管理者制度で足寄町が行う支援。(間接支援)

■足寄高校生のための公設民営塾

魅力ある足寄高校に求めるものとして「学力向上のための環境整備」をあげる意見が多かったことを踏まえ、足寄高校の特色ある学校づくりへの支援として、足寄高校生の学習意欲の高揚、学習習慣と基礎学力の定着と向上、生涯にわたる学習基盤を身に付け、ふるさとの「誇り」の醸成を図り、将来の地域を担う人材育成を目的に学習塾を公設民営で設置し、足寄高校生の学力向上のための環境を整えた。

運営は、実績のある民間とし、指定管理者制度により㈱Birth47に委託した。

①場 所

足寄町学習塾 足寄町南6条1丁目6番地

②委託期間

平成27年8月5日～平成30年3月31日

③指定管理者

㈱Birth47

全国70事業所で、教育事業40教室、スポーツ事業29拠点を展開している。

足寄町公の施設に係る指定管理者の指定手続きに関する条例第7条第1項の規定に基づく指定管理者を指定するため、地方自治法第244条の2第6項の規定により、議会議決。

足寄町学習塾設置及び管理に関する条例（平成27年条例第28号）

足寄町学習塾設置及び管理に関する条例施行規則（平成27年規則第27号）

④高校生に負担

高校生の負担はない。

⑤委 託 料

人件費・光熱水費・通信費・教材費・広告宣伝費・一般管理費・設備導入費・諸経費
など

平成27年度： 当該年度委託料 34,992千円

平成28年度： 債務負担行為 29,916千円

平成29年度： 債務負担行為 30,470千円

計 95,378千円

⑥通塾生徒数（平成28年6月22日現在）

1年生 31名

2年生 25名

3年生 7名

計 63名（通塾率 51.2%）

■足寄町多目的交流施設（足寄高校生向け食事付下宿）

定住移住及び将来の地域を担う人材育成を推進するため、移住体験者及び農業研修者等の宿泊と足寄高校生の下宿機能を併せ持つ施設として、整備した足寄町多目的交流施設。

特に、町内外から遠距離通学や通学が困難で下宿が必要となる生徒のために、家庭的で静かな学習環境で、調理師による食事提供や、男女別個室、管理人の常駐など安心な下宿を整備することで、足寄高校生の学習の環境を整えた。

運営は、指定管理者制度により一般社団法人びびっとコラボレーションに委託した。

①場 所

足寄町南4条3丁目10番地2

男子用 6畳間 6室（押入れ付き）

女子用 6畳間 5室（押入れ付き）

※ 全 室：ベット、机、椅子

共同施設：浴室（男女別）、洗濯機・乾燥機、洗面台、シャワー室、ミニキッチン

②委託期間

平成28年6月20日～平成31年3月31日

③指定管理者

一般社団法人びびっとコラボレーション

足寄町公の施設に係る指定管理者の指定手続きに関する条例第7条第1項の規定に基づく指定管理者を指定するため、地方自治法第244条の2第6項の規定により、議会議決。

足寄町多目的交流施設設置及び管理に関する条例（平成28年条例第23号）

④高校生に負担

家賃、敷金なし、一か月 65,000円（部屋代、食事共益費込み）

※ 冷蔵庫等電気機器の持ち込み時は別途 500円

※ 冬期間11月～4月は、暖房費として別途 2,500円

⑤委託料

指定管理料は、無償

稲わらペレットを利用した地域循環システムの構築に向けて

～報告書【概要版】～

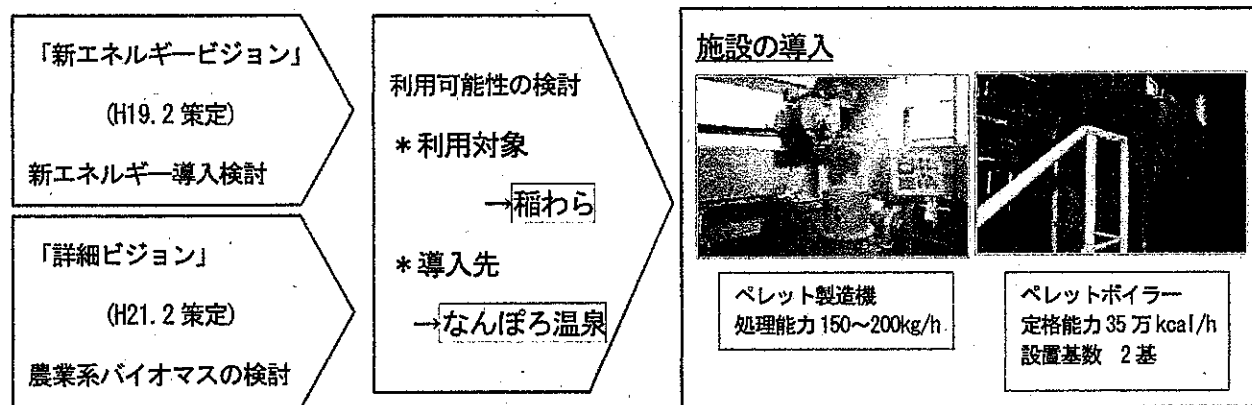
北海道 南幌町

南幌町はその将来像を「緑豊かな田園文化のまち」とし、「資源循環型のライフスタイルを育む環境づくり」を基本計画のひとつに掲げ「農業からの副産物である稲わらなどのバイオマス資源を有効活用し、化石燃料に代わる新エネルギーとして導入することで、二酸化炭素の削減と地域循環型農村社会の形成を目指す。」こととしています。

南幌町では、なんぼろ温泉ハート&ハートに稲わらペレットを燃料とするボイラーを導入しています。導入にあたっては、稲わらペレットは燃料として使えることは分かっていますが、ペレットボイラーを実際に運転することにより、新たな課題が見つかることが予想されます。このことから、導入してから3年間(平成23年度から平成25年度)は、地域循環システムの構築等について実証を行いました。この報告書は、これらの取組を取りまとめたものです。

1 南幌町の農業系バイオマス燃料化の検討～稲わらペレットの利用の背景～

南幌町内の新エネルギーの利用可能量などについて検討した結果、利用対象を稲わら、需要先をなんぼろ温泉ハート&ハートとしました。



稲わらはケイ素 (Si) が多く含まれているため、その焼却灰は固まる性質があります。そのため、現在は、稲わらペレットと木質ペレットを、1対1の割合で混合して利用しています。

平成23年度から25年度までの稲わらの収集については、稲わらを畜産業者へ有償譲渡している農業者の協力を得て、ペレット製造者が稲わらを購入しています。

圃場からの搬出、稲わらの保管施設までの運搬を農業者が行い、ペレット製造者が保管施設からペレット製造施設まで運搬し、ペレットを製造しています。



2 稲わらペレットを利用した地域循環システムの構築へ向けて～報告～

(1) 稲わらペレットを利用したバイオマスボイラー等の安定的な運転に向けて

ア バイオマスボイラーの性能試験

稲わらペレットを利用したボイラーは全国的に例がないことから、ペレットボイラーの熱効率などを測定する試験を行いました。

性能試験

試験期間 平成 25 年 7 月 22 日～25 日

* 試験は道総研工業試験場の「短期実用化研究開発」による技術協力を得て行った。

【試験結果】

ボイラーの種類	燃料の種類	出熱(KW)	熱効率(%)
ペレットボイラー	稲P+木質P	175～210	66.1～78.9
ペレットボイラー	麦P+木質P	194～213	67.5～74.9
重油ボイラー	A重油	73～74	38.4～39.2

【試験結果】

- ペレットボイラーは必要な熱を供給する能力はあったことが分かりました。
- ペレットボイラーの熱効率は 66%～79%であった。熱効率の向上のためにはボイラー熱交換器表面に付着したタールの除去が必要であると思われます。
- 重油ボイラーの熱効率が 38.4%から 39.2%と低い場合では、重油価格が 66 円/L より高い場合は、ペレット燃料を利用した方が経済的に有利であると思われた。なお、ペレットボイラー及び重油ボイラーがともに、一般的な熱効率である 85%から 90%で計算すると、重油価格が 120 円から 121 円以上の場合、ペレット燃料を利用した方が経済的に有利となります。

イ ペレットボイラーの維持管理について

ペレットボイラーは、燃焼室の壁、水管部分及び回転ロストルなどの定期的な清掃などの維持管理を行う必要があります。

(2) 稲わらペレットを利用する地域循環システムの構築に向けて

ア 経済的要件についての検証

平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月までの、なんぼろ温泉ハート&ハートの燃料使用量及び燃料単価の実績から、重油とペレットの使用料と、ペレットで使用した量を重油に置換えたときの燃料使用料を比較しました。

【結果】

燃料費はペレットを利用した場合より重油のみを使用した方が、年間で約 100 万円割高となります。

（この計算には運転管理に必要な人件費や電気料金などの費用は含まれていない。）

イ 焼却灰の利用

【焼却灰の利用】

融雪剤として利用（肥料取締法届出済）

有害成分の検査→基準内（汚泥肥料の基準）

放射性セシウムの検査→不検出



融雪剤を散布した圃場



融雪剤を散布した圃場

(3) 町民、事業者の情報の共有と普及啓発

ア 児童・生徒対象新エネルギーに関する学習会

日時：平成24年6月29日（金）

対象：南幌小学校児童 3～6年生

南幌中学校生徒 1～3年生

講師：東京大学大学院 橋本和仁教授



南幌小学校 学習会



南幌中学校 学習会

イ 新エネルギー・シンポジウム

日時：平成24年11月18日（日）

対象：町民等

講演会 講師：東京大学大学院 橋本和仁教授

北海道大学大学院 古市徹教授

パネリストディスカッション コーディネーター 北海道大学大学院 石井准教授

パネラー 広教資材㈱ 押岡社長、南幌温泉 渡部支配人

南幌町 三好町長

その他 ペレットボイラー等の見学会、ペレットストーブ等の展示会も開催



講演会



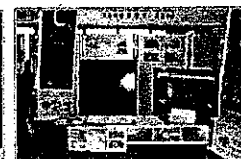
講演会



パネル
ディスカッション



見学会



展示会

ウ 新エネルギー・フォーラム

日時：平成25年8月25日（日）

対象：町民（参加人数：19名）

コーディネーター 北海道大学大学院 石井准教授

パネラー 大成建設㈱ 五十嵐氏

北海道環境財団 柴田専務理事

空知総合振興局 池田課長

開催方法：ワールドカフェ方式

参加者の主な意見

- 稲わらを圃場から搬出したいが、その作業が大変である。
- 課題はあるが、みんなで力を合わせて進めるべきである。
- 稲わらペレットの取組は、農業とあわせて発信すべきである。

コーディネーターの意見

- 稲わらペレットの利活用について、皆さんに身近なものとして知ってほしい。
- 稲わらを圃場に鋤き込むと温室効果ガスのメタンが発生する。稲わらを圃場に鋤き込まないで利用することは、環境にいいことをしている。

3 まとめ

(1) 稲わらペレットを利用したペレットボイラー等の安定的な運転に向けて

ペレットボイラーの性能試験の結果、稲わらペレットを燃料とするボイラーは、重油ボイラーの代わりに熱を供給する能力があることが分かりました。ペレットボイラーは重油ボイラーに比べて維持管理に手間がかかるので、その維持管理体制を構築する必要があります。

(2) 稲わらペレットを利用する地域循環システムの構築に向けて

経済的には、重油に比べて稲わらペレットは割高になるという結果ですが、稲わらペレットを大量に製造して利用するなど、その価格を下げるような対策が必要であると考えられます。現在は、稲わらを畜産業者へ有償譲渡している農業者の協力を得て、ペレット製造業者が稲わらを購入していることから、初期費用が高くなっています。このことから、稲わらを働き込まずに収集してペレットの原料とする取り組みが必要です。

(3) 町民、事業者との情報の共有と普及啓発に向けて

シンポジウム、フォーラムなどの開催を通じて、町民等への周知が行われ、情報共有ができました。

4 最後に

平成23年度から3年間、稲わらペレットを利用した地域循環システムの構築をめざし、取り組んできました。その結果、まだまだ解決しなければならない課題がありながらも、1年間の稲わらの利用量が120ロール（約24t）という規模ですが、稲わらの収集体制がとれたこと、稲わらペレットを燃料としたペレットボイラーは実用に耐え得る熱量を確保できること、焼却灰は融雪剤として利用できることなど、稲わらペレットを利用した地域循環システムを構築することができたと考えています。

このことは、農業から排出する副産物の処理などに課題を抱えている地域への、課題解決の一助となるものではないかと考えています。

来年度以降は、この地域循環システムを広げていくとともに、より良いものとなるようさまざまな取り組みを行っていきたいと考えています。
